

令和 6 年度 高畑小学校 研究の概要、成果と課題

1 研究主題

「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成 ～協働的な学びができる授業作りを通して～」

2 昨年度の研究と研究主題設定の背景

本校では昨年度、伝え合う力を高めることによって学び合うことのよさを味わわせたいという思いから、「伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の指導の工夫～対話的な学びを通して～」を研究テーマとし、研究に取り組んできた。授業実践や日常的な言語活動を重ねる中で、児童がすすんで相槌をうったり、主体的に話し合い活動に参加したりする様子が見られるようになった。また、教員側も題材設定を児童にとって身近な話題にすることや思考ツールを意識的に活用する等、授業の改善に取り組むことができた。

しかし、反面、児童同士の対話をつなげることの難しさ、自分事として課題に取り組むことができない等の課題も見えてきた。また、話型に頼らない話し合いのための指導の工夫も必要と考えた。

そこで、今年度は「対話的な学び」からさらに「協働的な学び」という視点を加え、研究を進めていくこととなった。これまでの研究の成果を生かしつつ、子どもたちの伝え合い、学び合う力をさらに引き出していくこととした。

3 本年度の研究の流れ（研究全体会 3 回、研究授業 6 回）

4 月：研究全体会（方向性・進め方の確認／各学年の課題について）、5 月：研究全体会（基調講演 講師 山梨大学准教授 茅野 政徳 先生）、6 月：6 年研究授業、9 月：2 年研究授業、10 月：1, 3 年研究授業、12 月：4 年研究授業、2 月：5 年研究授業、研究全体会（学年分科会の実践発表）

4 成果と課題

研究授業を通して、児童の興味関心を引く資料を選んだり、自作したりすることで、児童の学習への意欲を高めることができた。また、「決める」「つくる」「見付ける」「まとめる」「広げる」（協働ファイブ）の 5 つのカードを用意し、提示したことで、視点をもった話し合いができた。

しかし、協働的な学びの時間設定や話し合い方法はさらに検討していく必要がある。また、話し合いの内容によっては、カードの視点がうまく当てはまらないことがあったり、どのカードを使用すべきか迷ったりすることがあり、カードの内容についても再検討する必要があると感じた。

5 次年度に向けて

次年度は、協働的な学びをさらに深めていくため、研究授業の対象を国語だけでなく、他教科にも広げていく。また、テーマは本年度の課題もふまえ、「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成 ～意図を明確にした協働的な学習を通して～」とする。